成蹊大学新聞

発行所　成蹊大学新聞会
〒180－8633　東京都武蔵野市
吉祥寺北町3－3－1 成蹊大学内
Mail:seikeipress@mail.goo.ne.jp
発行人　渡邉　光紀
編集人　佐藤芳太郎
（1950年7月7日創刊）

成蹊大学正門脇
けやき歯科医院
診療時間
AM9:30～PM1:00
PM3:00～PM6:30（祝日）
PM2:30～PM6:00（土曜）
休診日　木曜・日曜・祝日
武蔵野市吉祥寺北町3－5－41
コーポけやき103
☎(0422) 51－3386

学生ボランティア本部始動

ボランティアのきっかけづくりを

学生ボランティア本部「Ｕｎｉ・（ユニー）」が6月1日付で正式に設立され、活動を開始した。第1回目の活動として6月6日に「広げよう！　ボラ友の輪」が開催され、他大学の団体も含め、ボランティア活動に興味のある学生が多数集まった。

学生ボランティア本部「Ｕｎｉ・（以下、ユニー）」が、6月1日付で正式に設立された。現在、学内でボランティア活動を行っている団体の上部組織として設立され、それらの連携を取ることや、学生全般に向けてボランティア活動の広報を行うことを目的としている。また、ユニー自体もボランティア活動を企画・実施する。

「広げよう！　ボラ友の輪」でのグループワーク

▼広げよう！ボラ友の輪

ユニー設立後初めての活動として6月6日、ボランティアセンター武蔵野にて「広げよう！　ボラ友の輪」が開催された。このイベントは、ボランティア活動を行ったことのない学生同士の交流の場を設け、ボランティアから始まる人との出会いの楽しさを知ってもらうことを目的としている。また、今回の出会いを今後へとつなげていくための企画を提案し合うこともねらいの一つだ。

武蔵野市ボランティアセンター主催の下、ユニーと亜細亜大学のボランティアサークルが共同でプログラムの企画・進行を行った。ほかにも、武蔵野大学や東京外国語大学の学生ボランティア団体が多数参加。本学からも国際交流会や地域交流部、手話サークルなどが加わり、総勢60名の学生が集まった。

メインプログラムの「みんなでつくるボランティアランキング」は、6人ずつのグループワーク。「ボランティアをする上で大切なこと」というテーマで、「自分が楽しめること」「相手に喜んでもらうこと」「社会に役立つこと」など与えられた9項目をグループで話し合い、ランキングを作る。各グループ内では、「相手を喜ばせてこそのボランティア」「自分が楽しむことで、結果的にそれが周りの人のためになればよいのでは」など、さまざまな意見が交わされた。

この企画に関し、ユニー代表の杉浦壽一さん（法律2）にいたところ、「順位を出すことよりも、いろいろな人の価値観を知るという過程が大切です。ボランティアに対してそれぞれの人が持っている固定観念を、少しでもなくすことができたらと思いました」と語る。

その後、グループワークを通し改めてボランティアにとって一番大切だと感じたことを個人が一言で表し、全員で1つの模造紙に貼り付けた。「仲間」「笑顔」「思いやり」などさまざまな言葉が並んだ。

最後の「月イチ大学間プロジェクト」のコーナーでは、これから月1回のペースでやってみたい企画のプレゼンテーションが行われた。みんなで吉祥寺を歩いてマップを制作し情報誌に掲載することや、定期的に団体間で情報交換をする機会を設けることなどが提案された。

▼これからのユニー

今後は、高齢者施設や保育園などで気軽に行えるボランティアの情報を集め、学生に提供していくことを主な活動としていく。杉浦さんは「本学には、ボランティアをしたくても行動に移すきっかけを見つけることのできない学生が多くいると思います。固く考えずに、まずは気軽な気持ちで楽しく始めることのできる企画を提供していきたいです。また、武蔵野市だけでもボランティアのニーズはたくさんあります。僕たちはそれらと学生との架け橋になれたら、と思っています」と語った。

（渡邉光紀）

教務部へ改編

学生視点をめざして

6月1日より学務部授業課・履修課が統合され、教務部へと改編された。

改編前は、試験や学籍異動、休講などに関する受付は授業課、履修登録や証明書発行、資格課程などに関する受付は履修課が分担して行っていた。そのため相談内容によってどちらの受付に行けばよいか分からないというケースが多く、不便さが生じていた。

そのような問題点を解消するため、経済学部・法学部・文学部・理工学部（いずれも大学院を含む）の4つの学部チームと全学部共通チームが設立され、それぞれに1つずつ窓口が設置された。以前からも、履修登録などで学生が集中する4月のみ学部ごとの窓口を設置していたが、今回の改編によってそのシステムが通年に渡って採用された。

各学部チームはそれぞれの学部のカリキュラムに基づいて行われる授業、履修登録、試験、成績、学籍等に関する事項を受け付ける。共通チームは教職課程、聴講生、証明書、教室管理等に関する業務など全学的な共通事項を担当する。

受付場所が各学部につき1つの窓口となったため、学生は自分の所属する学部着板の下へ行けば問題の対応がスムーズに行われる。これにより、受付場所が分からずに混乱する学生が減ると予想される。

場所はこれまでと同様で6号館1階、窓口受付時間も以前と同じ午前9時から午後12時30分から午後5時までとなっている。

秋庭正典教務部長は「それぞれの学生が抱える問題をひとつの窓口で解決できる、ワンストップサービスを目指しました。どんな些細なことでも構いませんので、ぜひ気軽に相談に来てください」と語った。

（野澤小夏）

新型インフルエンザ

感染者発生で休校に

世界規模で感染拡大を続け、世界保健機関（ＷＨＯ）で最高警戒水準のフェーズ6（6月12日付）に認定された豚由来の新型インフルエンザ。

本学でも6月9日に感染者が1名確認された。二次的感染拡大を防ぐため、6月10日から15日までの5日間にわたり全学の下旬には都内でも感染が確認された。感染者が出たことを理由に休校措置をとったのは都内の大学としては本学が初めてだった。

新型インフルエンザについて厚生労働省は、「免疫を持っている人が少ないため、感染が拡大しやすいと考えられる」と発表している。しかし季節性インフルエンザと症状は同じでタミフルも効果的なため、過剰な反応をせず、冷静な対応をとることが望まれている。

▼大学の対応の流れ

4月30日、新型インフルエンザの感染者が全世界に拡大していることを受け、ＷＨＯは警戒レベルをフェーズ5に引き上げた。これを受けて、本学は対応策を協議するため、「新型インフルエンザ対策　危機管理室」を設置した。そして6月9日の深夜、中野区役所から、本学学生で新型インフルエンザの感染者が発生したと連絡が入った。

6月10日、早朝から緊急対策会議が開かれ、11時30分頃に休校を決定した。感染者が確認されてから休校決定までに時差が発生したのは、感染者の最寄りの保健所と本学の管轄の保健所が違うため、連絡を取り合うのに、時間を要したためだ。

なお、同一キャンパス内にある小学校も感染防止のため6月11日から15日まで、中学・高等学校も6月11日から13日までを臨時休校とした。

▼各日程の変更

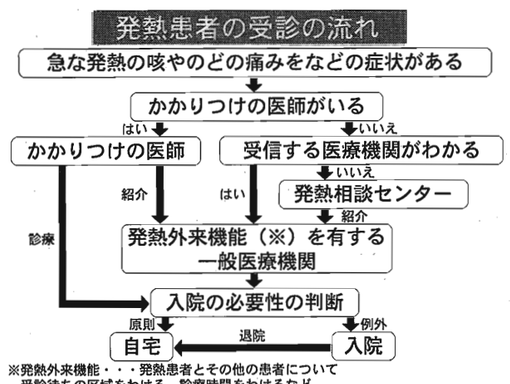
今回の休校は各行事日程に影響を及ぼした。6月13日に予定されていた本学の父母懇談会が中止、前期公開講座（第3回）は6月13日から6月20日に変更となった。また、四大戦の一部の競技や、サークル団体の試合日程も延期を余儀なくされた。しかし授業日程には大きな変更はなく、日数が不足する授業は補講か課題で補うことになる。

▼今後の対策

大学保健室では、多くの人が集まる施設や交通機関、人ごみに行く際は感染予防など、一人ひとりが自覚をもって行動を取るように指導している。また日常の予防策として、睡眠・食事を十分にとること、外出した時はうがい・手洗いをすること、風邪の症状が出た場合はマスクを着用することなどを挙げている。

そして、もし感染者との接触の可能性があり、高熱や倦怠感、咳、食欲不振などインフルエンザの症状が現れたら、最寄りの保健所内に設けられている発熱相談センターに連絡するよう勧めている。また、感染が確認されたら大学保健室（０４２２－３７－３５１８）に必ず連絡をするよう呼び掛けている。

（田原口茜）



※発熱外来機能・・・発熱患者とその他の患者について受診待ちの区域をわける、診療時間をわけるなど、院内感染対策を強化した外来機能のこと。　厚生労働省ホームページより

論説

渡邉光紀（日本文3）

ご意見・ご感想は seikeipress@mail.goo.ne.jp

学陸の開催時期を考える

記念すべき第50回学内陸上競技大会が中止となった。開催が予定されていた5月29日は、前日からの雨に見舞われ次週へと延期に。予備日である6月6日も天候に恵まれず、結果今年の学内陸上競技大会は開催中止となった。昨年も雨の影響で中止となったため、これで2年連続の未開催となる。

▼学陸の現状

学内陸上競技大会（以下、学陸）は、昭和35年に第1回大会が開催されてから今年で50回目を迎える歴史ある行事だ。毎年学内から多くの体育会や文化会、サークルが参加し、大変な盛り上がりを見せている。主に5月末から6月上旬の間に開催されるが、梅雨入りの時期に設定されていることも影響し、第42・44・49・50回大会の計4回、雨により中止となっている。ほかにも、予備日に開催されたために欠場する団体が多数出た大会も多い。

学陸を含む学内行事の日程は、主に大学学生部によって学年暦の作成の過程で「開催時期の変更を大学側に請願することも選択肢の一つとして考えている。しかし、他に適切な時期が少ないことや、新入生を大学に迎え入れるという学陸本来の意義を考慮しなければならず、慎重な検討が必要だ」と語る。

学陸で使用するトラックのウレタン舗装化工事を挙げる。元来の土のトラックから、雨を弾く特殊ゴムで加工された全天候トラックへと改修されるため、来年度の学陸からは前日の雨も6月11日から13日までに影響を及ぼした。6月13日に予定されていた本学の父母懇談会が中止、前期公開講座（第3回）は6月13日から6月20日に変更となった。また、四大戦の一部の競技や、サークル団体の試合日程も延期を余儀なくされた。しかし授業日程には大きな変更はなく、日数が不足する授業は補講か課題で補うことになる。

▼今後の対策

大学保健室では、多くの人が集まる施設や交通機関、人ごみに行く際は感染予防など、一人ひとりが自覚をもって行動を取るように指導している。また日常の予防策として、睡眠・食事を十分にとること、外出した時はうがい・手洗いをすること、風邪の症状が出た場合はマスクを着用することなどを挙げている。

そして、もし感染者との接触の可能性があり、高熱や倦怠感、咳、食欲不振などインフルエンザの症状が現れたら、最寄りの保健所内に設けられている発熱相談センターに連絡するよう勧めている。また、感染が確認されたら大学保健室（０４２２－３７－３５１８）に必ず連絡をするよう呼び掛けている。

（田原口茜）

▼出場者の声を

学陸が中止となることは、大学全体の活気を損なうことにつながりかねない。新しいトラックも当日の雨には対応できないので、少しでも中止になる可能性を下げるためには、2週間ほど日程を早めるなど、梅雨を避けた開催時期への変更も視野に入れるべきだ。学陸は何よりも出場者のための行事だ。体育会本部は運営者として他の出場者の声を聞き取り、必要と判断されれば大学側に要望を持ち込むことも必要だ。他の団体の意見を吸い上げ統合する。学生の代表として、そのような体制を担っていってほしい。

斉藤公彦学生生活課課長は、「2年連続で中止となってしまい、大学側も重く受け止めている。開催時期を変更することも考えたが、来年までは見送ってみてもよいのでは」と話す。

その理由として大学は、今年6月中旬から開始された開催中止の可能性が軽減される。大学は来年度、新しいトラックの有用性を確かめてからでも検討は遅くないとする。

また斉藤課長は、「実際に大会を運営する体育会本部の意見を尊重したい。開催時期を変更したいという要望を出してくれれば、前向きに検討したいと思っている」と語る。

決定される。一方、実際に学陸の運営を行うのは体育会本部だ。学陸の運営者として、エントリーの集計から当日の競技の監督までを行う。

▼運営者・大学側の見解

体育会本部委員長の名川雄大さん（法律4）は、

TOPICS

紀伊国屋の手作り商品

食堂の2階にある紀伊国屋書店にこんな商品があるのをお気づきだろうか。アイス売り場の上にある手作りの筆箱、財布、ブックカバーなど。これらの商品は、知的障がいがある人たちの手によるもの。

商品製作は渋谷区笹塚にある福祉作業所「ふれんど」で、5年ほど前から行われている。そこではメンバーが20名、スタッフが7名働いており、平日の午前9時から午後4時まで活動をしている。

本学での販売に至ったきっかけは、本学出身で現在、社会問題のルポライターをしている宮西正明さんだ。宮西さんは大学の後輩である本学園の広報課長に「ふれんど」の商品の話をし、広報課長が紀伊国屋に掛け合ったことが始まりだったのだとか。

活動内容は文具などの小物作り、スリッパやポーチ作り、菓子メーカーの箱折りなど多岐にわたる。メンバー一人ひとりによってできる作業が異なるため、その人にあった作業をする。また、商品づくりに使う布の多くは、メンバーが糸から機織り機を使って作っている。

取材に応じてくださったスタッフの遠藤あゆみさんは「商品にはいろいろな色・サイズがあり、幅広い年齢層の方に使っていただきたいです。手に取ってもらえるだけでもうれしくなります」と語った。

この商品を通して、普段あまり知る機会のない障がいがある人の生活や仕事に関心をもってみてはいかがだろうか。

（河野佑介）

桃李

Legend of Haruji

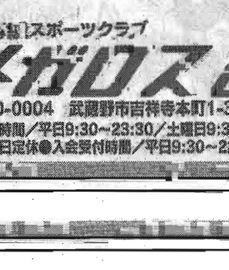
【第3回】中村春二は、個性を重視した教育を実践すべく、私立学校を作りたいと考えていた。しかし、お金も無く実現は夢のまた夢だった。人を教育するには、まず自分が強くなければならないと思った春二は、禅寺で精神修行をする。さらに津田塾大学の創立者となる津田梅子に出会い、改めて教育の素晴らしさを実感し学校設立を決意。春二は父に資金援助を頼む。教育者になることに反対はされなかったが、援助は断られてしまう。

その頃、友人の今村繁三が英国から帰国していた。春二は今村に学校設立の夢を熱く語った。それからしばらくして今村の30歳の誕生日パーティに招待される。なんと、春二はその会で今村から1万円（現在の1億円以上）を教育事業への貢献として寄付された。さらに春二の幸運は続く。時を同じくして岩崎小弥太も英国から帰国。岩崎も春二の教育に対する思いに胸打たれ、1万円を寄付した。

こうして春二は学校設立への第一歩を踏み出した。まず手始めとして東京の自宅を塾として開く。その塾の名は成蹊園と言った。

続

（相崎拓也）


30歳頃の中村春二

並木道

私は昨年の夏、堕落した毎日から脱出するべく、九州へと旅立った。特に福岡から宮崎にかけての探索は鮮明に覚えている。自転車で駆け抜けた海浜公園、モアイのたたずむ丘陵、すべてが刺激的だった。この日常にはない「旅」は私の堕落した毎日に終止符を打ったかに見えた。しかし「旅」は私が求めたものではなかった▼毎日が充足していればどんなに素晴らしいことだろうか。日頃の願望が「旅」という形となった。しかし堕落した日常から逃げだけの私の「旅」は失敗に終わった。満ち足りた毎日を得るためには自分と向き合い続けなければならなかったのだ。それは人間的な充実にもつながっている。よりよい今日を手に入れるための努力を惜しまない姿勢、それが大切だからだ。意味のない毎日ほど無駄なものはない▼「明日はなんとかなると思う馬鹿者。今日でさえ遅すぎるのだ。賢者はもう昨日済ませている」。これは私が好きな格言で、アメリカの社会学者チャールズ・クーリーの言葉だ。明日やればいい、何とかなる、現実から眼をそらしているから無気力な毎日しか生きられない。自分と向き合わないから日常が腐っていく。我々は人間として、馬鹿者であってはならない。賢者となるべく日々を考えて過ごすべきだ▼新しい刺激はいずれ日常に吸収されていく。だから堕落した毎日にならないように、「このままでいいのか」と常に自問自答する。それによって毎日の充足を図る必要があるのだ。

（長谷川世納）

紙面から
2 祝日授業とは何か？
3 陸上競技部八大戦四大戦
4 Ｍｒ．サークル王決定戦

監督：田口トモロヲ　原作：みうらじゅん
渡辺大知（黒猫チェルシー）×峯田和伸（銀杏ＢＯＹＺ）×岸田繁（くるり）
色即ぜねれいしょん
８月、全国ロードショー【前売券絶賛発売中】
その他『エヴァンゲリヲン新劇場版：破』『扉をたたく人』
『ＭＷ－ムウー』『モンスターＶＳエイリアン』など上映中
詳細はホームページまで
http://www.baustheater.com　携帯からはこちら↓
絶賛公開中
吉祥寺バウスシアター
映画館までの道のり
・0422-22-3555

体験500円チケット
（通常3,150円）
営業時間内いつでもＯＫ
ジム、スタジオ、プール、スパ、ロッカーがご利用可
お得なご入会キャンペーンも開催中!!
チケット有効期限：2009/9/30（水）まで
※ご体験ご利用時はご予約の上、必ずこちらのチケットをお持ち下さい。
超メガ盛！スポーツクラブ
メガロス吉祥寺
〒180-0004　武蔵野市吉祥寺本町1-37-8　KM吉祥寺ビル　TEL.0422-21-8300
MEGALOS SPORTS PARADISE
●営業時間／平日9:30～23:30／土曜日9:30～22:00／日・祝9:30～20:00　www.megalos.co.jp
●全館日定休●入会受付時間／平日9:30～22:00／土曜日9:30～21:00／日・祝9:30～19:00

祝日授業とは何か？

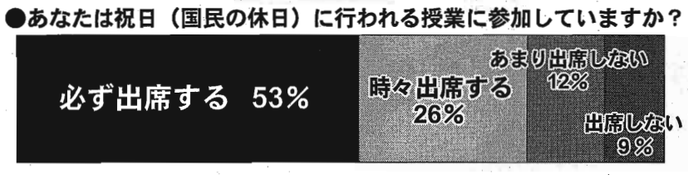
変化する教育現場と学生

学生アンケートから見えるもの

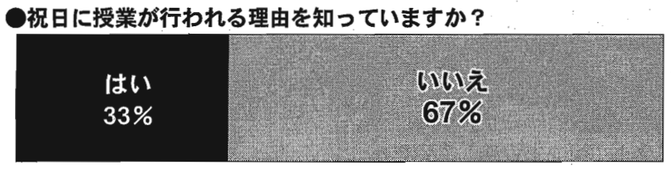
近年、祝日にも授業を行う大学が増えている。本学も例外ではなく、祝日授業はもちろん欅祭期間の短縮など、ここ数年で授業回数が増加している。祝日になぜ授業が行われているのか。従来よりも授業回数が増えつつあるのはなぜか。私たち取材班はアンケートやインタビューをもとに、その背景を探った。

祝日授業についてのアンケート

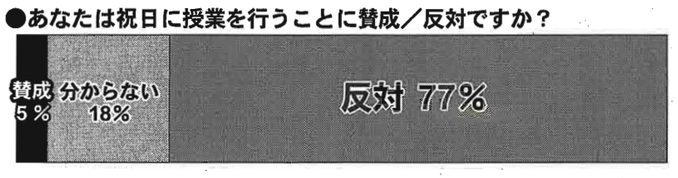
●あなたは祝日（国民の休日）に行われる授業に参加していますか？



●祝日に授業が行われる理由を知っていますか？



●あなたは祝日に授業を行うことに賛成／反対ですか？



今回本紙は「祝日授業について」と題し、本学学生を対象にアンケート調査を行い、３５６人から回答を得た（小数点以下四捨五入で計算）。

アンケートの内容は、（1）祝日（国民の休日）に行われる授業に参加しているか？（2）祝日に授業が行われる理由を知っているか？（3）あなたは祝日に授業を行うことに賛成か反対か？の3項目。

このうち祝日の授業についての賛否を尋ねたところ、約77%にあたる２７７人が「反対」と回答。「賛成」は17人、5%だった。また、「分からない」とした答えも67人で約18%あった。この調査による限り「理由は知らないがとりあえず出席はする」という傾向が本学学生には強いようだ。しかし、祝日授業そのものに対しては、8割近くが反対の立場を示した。

祝日授業反対派の意見を見てみると、「祝日は休みたい・休むべき」「アルバイトなどと予定がかぶる」が最も多かった。また「祝日に授業があっても実際は休講になることが多く、意味がない」「祝日に授業をやるよりも、授業そのものを充実させてほしい」といったものや「夏休みが一週間短くなってもいいから休みたい」といった意見もあった。一方、賛成派の意見では「決まったことだから仕方がない」が多かったが「大学はもっと授業を増やすべき」「夏休みが削られるよりは良いから」といった意見も見られた。また「分からない」と答えた人の中では「一概に祝日授業が良い悪いとは言えない」「興味がない」といったものが目立った。

調査結果を見る限り、多くの学生が祝日授業自体には反対しているが、実際には出席していることがわかる。出席する理由として「仕方がないから」「授業があるから何となく」といった回答が目立つ一方、「普段より出席者が少なくて集中できる」といった回答もあった。ある意味で、調査には表れなかった祝日授業の実態を示しているようでおもしろい。

なぜ祝日授業が行われているのか、さまざまな回答が見られたが、多くは曖昧な認識のまま出席しているようだ。祝日授業について疑問や意見があっても、大学全体を巻き込んだ議論には発展してこなかった。

そもそもこの数年、なぜ授業時間数は増加してきたのか。祝日授業を行ってまで、授業時間数を確保しなければならない理由はどこにあるのだろうか？

1つの要因として「大学設置基準」の存在があるのではないか。大学設置基準とは何か。それは大学や私たち学生にどのような影響をもたらしているのか。

そこで大学設置基準を読み解き、栗田学長らにインタビューを行った。その過程で見えてきたのは、大学設置基準だけが要因ではない、変化を迫られる大学教育の「今」だった。

（佐藤芳太郎）

大学設置基準を読む

教育再生の聖典

祝日授業の実施との関係を探ってみた。すると、祝日授業と関連の深い条文を3つ挙げることができた。

・第21条　15時間から30時間の範囲で、大学が定める時間の授業をもって1単位とする

・第22条　1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする

・第23条　各授業科目の授業は10週、もしくは15週にわたる期間を単位として独自に検証を行った。

本学の平成21年度学年暦によると、前期・後期ともに試験期間を含めて17週間と3日間の授業期間が設けられている。試験期間が2週間設置されているため、実際の授業期間は15週間となる。教授の都合で休講となった場合は補講で時間を調整する仕組みになっている。また通年の授業期間は試験期間を含んで35週間と1日になり、大学設置基準の35週間に届いている。つまり、本学は22条の原則と23条については順守している。

では21条についてはどうだろうか。本学は1時限が90分で構成されている。これが15回行われることで2単位を修得できる。つまり2単位当たり1350分、約22時間の授業時間が設けられていることになる。この計算では1単位当たり11時間となり、21条に違反しているように見える。しかし条文は「大学の定める時間の授業をもって1単位とする」と締めくくられている。本学は90分をもって2時間の授業としているため、実質の授業時間が約11時間であっても15時間分の授業を行っていることになる。これにより、第21条も順守していることがわかる。余談だが演習や外国語、体育実技は学則第36条で「30時間をもって1単位とする」とされている。

本学の学年歴によると、今年度は祝日授業が7回行われる予定になっている。各曜日の授業を15回行うことを目標とした今年度、祝日授業がなければ長期休暇のどこかを1週間程度削らなければならない計算になる。祝日授業を行うことで、学生はその1週間分の休暇を享受できるというわけだ。学生は祝日授業と15時間の授業時間数確保である。

実際のところ、これまで私学の授業時間数に対して国の監督・統制はそれほど厳正ではなかった。それは12回や13回の授業数であっても、文科省が特に指導も改善も求めてこなかったことにも表れている。大学も学生も、いつしかそれを当然のことと考えるようになっていたのだろう。

今や状況は変わった。私学と国の間に長く存在した「暗黙の了解」は消えつつある。文科省は大学の許認可事項や申請の不受理を盾に、最低15回の授業時間数確保を要求。国の監督が強まっていくなか、それまで自由に授業時間数を設定してきた多くの私学が対応に苦慮している。

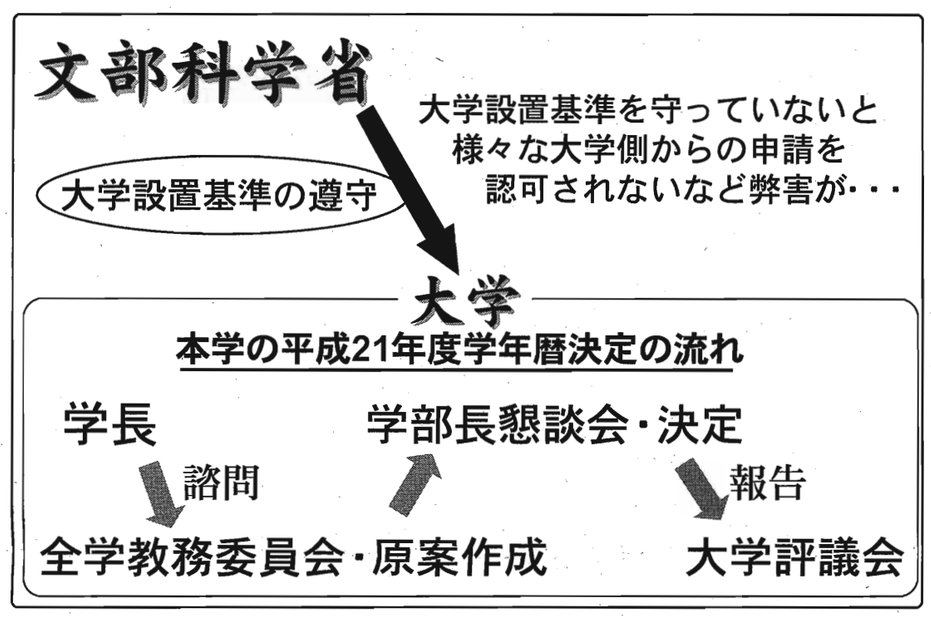
本学も例外ではなく、この状況の変化にどう対応するか模索が続いていることだろう。学生の側としても、それまで13回が当たり前だと思っていた授業数が、今では15回まで増えたことに戸惑いを覚えたかもしれない。さらに祝日も授業日と設定されたことに多くの学生が反発し、様々な憶測を呼ぶことにもなった。

今の私たちはゆとり教育からの大転換という、押し寄せる変化への過渡期にいる。次々と変わる教育行政に振り回されるのは教育現場であり、また私たち学生自身だ。

授業時間数を単純に増やしただけで、果たして学生の資質は向上するのかという疑問が残る。だが、ほとんどの大学は15回の授業実施へと向かいつつあり、もはやこの流れを変えることはできないだろう。本学も授業時間数の増加を決定した。もちろんそれは、大学設置基準の遵守だけではなく、学生により多く教育の機会を与えるためであるはずだ。

しかし結局は、学生自身の問題なのかもしれない。私たちは誰かに命じられて学ぶのではない。自らのために学んでいるはずだ。祝日授業をどう受け止めるかはそれぞれの判断による。本紙の記事が祝日授業の理解に役立ち、判断を下す材料となれば幸いだ。

（本紙取材班　佐藤・塚崎・長谷川）



学長の見解

祝日にも授業を行うのは、大学設置基準で定められた半期15回の授業回数を確保するためなのか。私達は栗田学長にインタビューを行った。

―祝日に授業が行われる理由として、私たちは大学設置基準があるためだと考えているのですが、この大学設置基準とは、遵守しなければならないものなのですか。

「はい。それに違反するということは許されませんし、例えば文科省に届けを出したり認可をお願いしたりする場合、15回であるかどうか確認されます。他の大学もだいたい15回でやっているか、15回に向けて準備をしている。そういう段階だと思いますね」

―確かに設置基準に違反すると届け出や許可申請の際に問題が生じることがあると思います。もうひとつ、私学助成金というものがありますが、これもやはり大きいものですか。

「たぶんそれは影響してきます。しかし今のところ助成金の査定基準の中に、私の知る限り授業回数は明記されていませんが、当然の前提として考えているからでしょう」

―すると私学助成金などではなく、届け出や認可といった手続きの面で影響が出てくると？

「現段階では、直接の影響としてはそれが一番大きいと思います」

―本来私学というのは官学に対抗して、あるいは自由な教育、個性を持たせた教育のために作られたと思います。それを国が大学設置基準で縛るということは、今後の日本の教育行政のあり方を考えたとき、メリットが無いのでは。

「メリットはあると思います。ただし細かく規定をしすぎると、良くない面は当然あると思います。ですから私は、今のやり方で万全だと思っているわけではありません。しかし、例えば悪質な大学や質の低い大学が出てきたとき、そういうのはきちんと対応せざるを得ないでしょうから、何らかの基準は当然必要であろうとは思っています。ただ、官学と私学というのは当然違います。私学は建学の理念で教育をするべきだと思っています」

―実際、多くの学生は学則を読んでいない、とも思いますが。

「残念ですね、それは。学則を読んでもらえないのでは」

―では説明会を開こうとか、そういうお考えはありますか？

「特に説明会などは考えていません。このことは各学部履修要項のはじめの部分にも、このようにはっきりと書いてありますから、多くの学生は理解していると考えています」

―大学設置基準以外にも、15回に増加した理由はあるのですか。

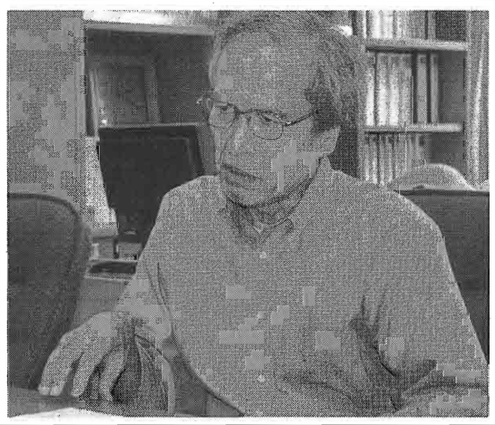
「授業をやるというのは、学生に十分なスキルと能力、考える力を身に付けてもらうためです。授業時間の増加は学生の資質向上につながると思います。実はかつては、曜日によっては11回、12回しかとれないこともありました。だがそれで本当によいのかという問題もあったのです」

―祝日に授業を行うことについて、大学と学生の意識の間にズレがあると思いますが？

「同じ意識というのは難しいでしょう。ただ、あまりズレが大きくなると良くない。15回やるというのは規則で決まっていた。

インタビュー終了後、栗田学長は授業回数について必要であれば、年度始めに何らかの説明を行うよう検討すると語った。

（佐藤・塚崎）



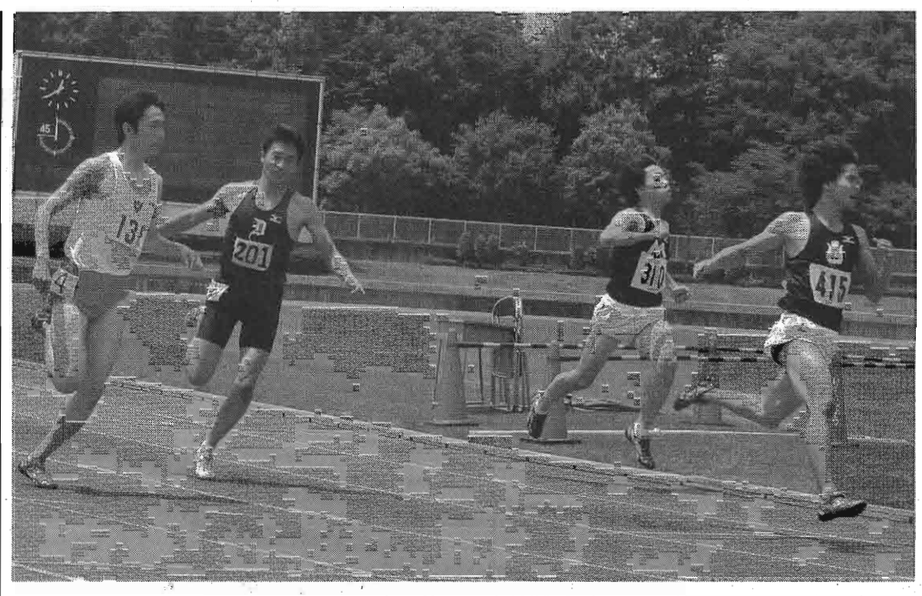
PASSION
KNOWLEDGE
MOTIVATION
If you have The Three Words,you must go SUP OFFICE.
FRIENDS
MEMORIES
RESULTS
If you want The Three Words,you must go SUP OFFICE.
SEIKEI UNIVERSITY PRESS

成蹊大学新聞は
☆学内唯一の学生主体メディアです
☆企画・取材・撮影・執筆・制作・広告営業・運営など全てを学生が行っています
☆ちなみにこの広告も学生が作ってます
☆４・５・７・11・12月の年５回発行
☆月・水・金曜日に学生会館３階で部会
☆略称はＳＵＰ（Seikei University Press）
☆まだまだ新入部員募集中
よろしくお願いします☆

陸上競技部 男子

八大戦・私学四大戦 惜しくも2位

第9回八大学対校陸上競技大会が5月30日に上柚木陸上競技場で行われた。本学陸上競技部は健闘むなしく2位となり、4連覇への夢を果たせなかった。また、本学は6月27日に町田市立陸上競技場で行われた第15回関東私学四大学対校陸上競技大会でも明治学院大に敗れ、優勝を逃した。



100メートルを走り抜ける宮崎選手（４１５番）

▼八大戦

八大学対校陸上競技大会では東京理科大、武蔵大、玉川大、桜美林大、都市大、工学院大、成城大、本学の8校で優勝が争われた。本学陸上競技部男子は2種目で1位になるが、総合順位を2位とし、4連覇を逃した。

【1位種目】

●100メートル
田中俊（法律3）

●4×100メートルリレー　大原宙（情報科3）・八巻優介（情報科3）・宮崎宏仁（法律2）・田中俊

【試合内容】

4×100メートルリレーでは、号砲とともに好スタートを切った第1走者の大原選手が3位につける。素早いバトンパスを受けた第2走者の八巻選手が、前を走る東京理科大や武蔵大との差をわずかに縮める。第3走者の宮崎選手が玉川大に抜かれてしまうが、懸命な走りを見せてなんとか喰らいつき、バトンは第4走者の田中選手へ。田中選手はカーブで溜めたスピードを最後の直線で爆発させる。玉川大、武蔵大を追い越し、ラスト50メートルで東京理科大との一騎討ちに。スピードにのった田中選手はラスト10メートルで東京理科大を捕らえ、逆転優勝する。本学は42秒55でゴールし、2位とのタイム差が0秒25という接戦をものにした。続く100メートルでも田中選手は強さを見せた。前半は全選手が横並びとなるが、50メートル地点を過ぎたあたりから一気に加速し、独走状態のままフィニッシュ。タイムも2位以下が11秒台の中で10秒61を打ち出し、この種目で優勝を果たした。

2種目で勝利に貢献した田中選手は「身体の調子が整っているか不安だったけれど、最終的に自分らしい走りができてよかった」と語った。

▼私学四大戦

関東私学四大学対校陸上競技大会には上智大、獨協大、明治学院大、本学が参加した。本学は4種目で1位になった。

【1位種目】

●100メートル
宮崎宏仁

●4×100メートルリレー　松崎靖英（物質生命3）・八巻優介・宮崎宏仁・高橋宏輔（日本文4）

●4×400メートルリレー　小野裕生（法律2）・中窪真也（経済経営3）・高橋宏輔・山崎大輝（経済経営3）

●砲丸投げ
中窪真也

【試合内容】

100メートルでは宮崎選手が反応のいいスタートダッシュを見せる。ここで得たほかの選手との差をそのままキープしてゴール。11秒09の好記録を出し、優勝する。

リレー種目でも本学は実力を発揮する。4×400メートルリレーでは第1走者の小野選手がスタートで遅れを取り3位となるも、スムーズなバトンパスで第2走者の中窪選手につなげる。中窪選手がスピードを緩めることなくコーナーを走り抜けて明治学院大、上智大との差を詰めると、リレーは3校の混戦状態に。だが、第3走者の高橋選手がこの均衡を打ち破る。直線で一歩を幅広く取ることで一気に上位2校を抜き去り、第4走者の山崎選手にたすきを渡す。その後は、山崎選手が高橋選手の作ったリードを死守してゴール。本学は3分20秒の大会新記録となるタイムを打ち出し、この種目で優勝を果たした。

一方、砲丸投げでも本学は他大を制した。砲丸投げは全6投中で最も良い記録が採用される。本学からは中窪選手と長谷川司選手（経済経営4）が出場した。序盤から2選手は9メートル台後半の好記録を出す。また、投球回数を増すとともに調子を上げていく。そして迎えた6投目。長谷川選手がこれまでの最高となる10メートル28センチを記録して勝負はついたかに見えた。だが、その後の中窪選手の投球。体をひねった反動によって放たれた砲丸は軌道に乗って放物線を描いた。10メートル33センチを叩き出し優勝。本学はワンツーフィニッシュを飾った。

しかし本学はほかの種目で明治学院大に敗れて総合順位を2位とした。

宮田雅敏主将（エレクトロ3）は「勝てる種目を落としたことが敗因。これから一人ひとりが成長して全体の力を伸ばしていきたい」と抱負を語った。

（橋本成矢）

成蹊レガッタ アベック優勝 ライフセービング部

第40回成蹊レガッタ（学内競漕大会）が6月25日に戸田オリンピックボートコースで行われた。

今回は男子64艇、女子32艇、混合56艇の計152艇が出場。各レース4艇が250メートルの距離を競い準決勝での上位4艇が決勝を行う。

混合の部ではヨット部の「エンパラ号」が優勝。女子、男子の部ではライフセービング部の「由紀んこ号」、「近藤、武蔵0・72mm号」がアベック優勝した。

混合の部決勝は国際交流会、ヨット部が順調なスタートを見せ、接戦を繰り広げる。ゴール間近、わずかにリードしていた国際交流会が崩れたのに対し、ヨット部はラストスパートをかける。その結果、ヨット部が国際交流会を抜きトップでゴールした。

レース後、内藤朗主将（情報科2）は「去年は準決勝で負けたので雪辱をはらすことができて大変うれしい」と述べた。

女子の部決勝では、スタートとともにバスケ部女子がリード。しかし中盤、バスケ部女子をライフセービング部、国際交流会、ラクロス部女子が追い抜くと、そこから勝負は3艇の接戦となる。ゴール手前100メートル、疲れから各艇のスピードが落ち始めるなか、終始息の合っていたライフセービング部が混戦を抜け出してそのままゴールした。

トップでゴールするライフセービング部

男子の部は大会2連覇中のライフセービング部に対し、軟式野球部、教職員、弓道部がどう喰らいつくかに注目が集まった。序盤は、4艇とも素晴らしい滑り出しをみせ、横一線で並ぶ。しかし、さすが2連覇中の王者ライフセービング部。わずか50メートルでほかの3艇を引き離すと、そこからは独走状態。決勝戦にもかかわらず格の違いを見せつけ、勝利した。

今回アベック優勝を果たしたライフセービング部。男子の田中智之主将（物質生命4）は「プレッシャーがかかったが、楽しむことができた」と話した。また、女子の宍野彰香主将（経済経営3）は「男子が強いので、女子も負けないくらい必死に漕いだ。アベック優勝を祝いたい」と喜びをかみしめた。

（大城卓人）

四大戦 硬式テニス部男子 学習院を下すも2位

四大戦硬式テニス部男子の対学習院大戦が、6月28日に本学で行われた。本学は約10回続いたラリーを制し、再び6―5とリードを奪う。そして第12ゲームでは細野選手がサービスエースを決め、30―0で学習院大を引き離す。また宮城選手も相手の打球を的確に捉え、角度のあるボレーでマッチポイントを迎える。最後は宮城選手が相手の甘いロブをスマッシュで決め、学習院大を下した。

千家潤也主将（政治4）と橋場涼選手（国際文化2）のペアは学習院大と僅差で競る試合展開となり、苦しい戦いとなった。

ゲームカウント5―5で学習院大に追いつかれた後の第11ゲーム。細野選手のショットが厳しいコースをついたことで相手がたまらずミス。本学は約10回続いたラリーを制し、再び6―5とリードを奪う。そして第12ゲームでは細野選手がサービスエースを決め、30―0で学習院大を引き離す。また宮城選手も相手の打球を的確に捉え、角度のあるボレーでマッチポイントを迎える。最後は宮城選手が相手の甘いロブをスマッシュで決め、学習院大を下した。

千家潤也主将（政治4）と橋場涼選手（国際文化2）のペアは学習院大と僅差で競る試合展開となり、苦しい戦いとなった。

ゲームカウント6―6。第13ゲームは学習院大の動きが硬くなり、レシーブミスが目立つようになる。そこを見逃さずに本学は強烈なサーブで攻め、ゲームカウントを7―6とする。第14ゲーム、本学は積極的に前衛がボールに絡み、スマッシュやボレーを決める。それに押されて、学習院大にもサーブミスが出始める。そしてマッチポイント。本学はライン際へレシーブを打ち、相手の体勢を崩す。そして甘くなった球をボレーで冷静に決め、ゲームセット。本学が見事に2ゲームを連取し、試合を制した。

試合全体を通して千家主将は「今回の試合は成蹊大、学習院大ともに良い緊張感を持てた。この気持ちを活かして、次の試合に臨んでいきたい。部員みんなの応援が力になった」と語った。

（鹿島健）

四大戦 成城大に完勝 ラクロス部男子

四大戦ラクロス部男子対成城大戦が、6月28日に成城大学にて行われた。

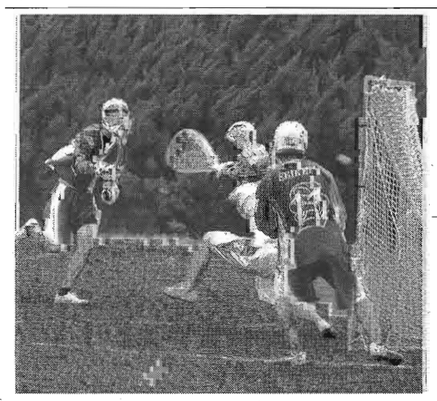
《試合結果》

○20―3　対成城大

大雨に見舞われ、ぬかるんだグラウンドに足をとられる選手がいるなか、本学は終始安定した試合展開をみせた。第4クオーター10分、流れるようなパスを受けた杉山亮介選手（情報科2）のシュートを皮切りに、本学のシュートが次々と決まる。さらに本学ディフェンスは積極的に相手に体を寄せてボールを奪う。本学は成城大にシュートの機会を与えず、3失点に抑え圧勝した。

岩切健輔主将（経済経営4）は「早めにボールを奪うことを意識した。主力がベンチに下がるとディフェンスがうまくいかなかったので、今後は選手全員の技術の底上げを目指したい」と語った。

（大城卓人）



シュートを決める本学選手

本当に怖い 熱中症

先日、私は先輩の命令で成蹊レガッタの取材へ行った。先輩の天使の笑顔が悪魔に見えたのは内緒だ。結果、取材中に軽度の熱中症にかかってしまった。膝靭とする頭で先輩を全力で罵っていた時、「これは記事にできるのでは？」と閃いた。一矢報いるためにも私は熱中症の記事を書こうと決意した。

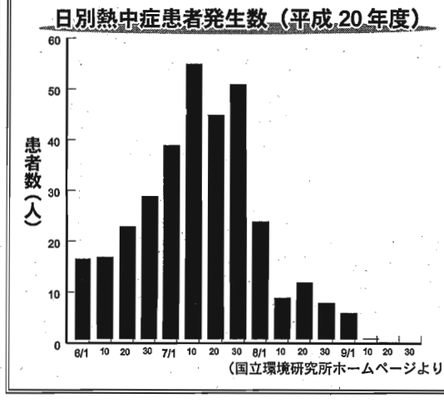
人の体は運動をすると体温が上昇するので、その発生した熱を外へ逃がそう汗をかく。しかし体調不良などで体のバランスが崩れていると、うまく熱を発散できない。そして体温が上昇し続けてしまい、熱中症にかかってしまう。特に普段から運動をしていない人、汗をかきにくい体質の人がかかりやすい。しかし熱中症は体の弱い人だけがかかるわけではない。健康であっても過剰なスポーツなどで体を酷使していると発症してしまう。症状は軽いもので倦怠感や頭痛、ひどくなると吐き気やめまいを伴う。

国立環境研究所のホームページに掲載されている昨年度の東京都で熱中症が多発した時期のグラフをみると、7月から8月にかけて発症することが多いことが分かる。熱中症は重度の症状まで放置しておくと死に至る可能性もあるので、予防を行い、症状が出たら軽いうちに対処しなければならない。特にスポーツをする人は睡眠をよく取り、体調を整えて臨むとよい。また、市販のスポーツ飲料水をこまめに摂取することも簡単な予防法の1つだ。補助を行う人は、首筋やリンパ腺に当てて体温を下げるための氷や濡れタオルなどを準備しておくことを勧める。

このように熱中症の予防や事前の用意はそう難しくない。普段あまり運動をしない人、しっかりとした知識を身に付けてスポーツを始めてみるのもいいかもしれない。私も自分の体調を大切にしながら取材を頑張ろうと思う。

（長谷川世納）

日別熱中症患者発生数（平成20年度）



（国立環境研究所ホームページより）

INSIDE

今から約1年前、本学に新たなサークルが誕生した。その名もテコンドーサークル「CHONJI（チョンジ）」。生みの親となったのが大谷悟（経済経営3）だ。

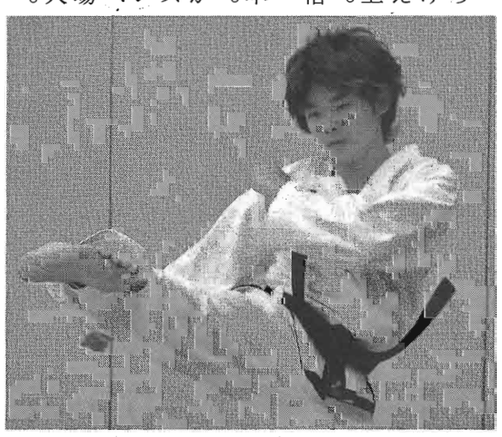
大谷は高校1年の時にテコンドーを始めた。蹴りから繰り出される華麗な足技に魅了されて、すぐにテコンドーに夢中になった。

「大好きなテコンドーを広めたい。そして仲間と一緒に学生大会に出て優勝したい」。そんな夢を抱いて「CHONJI」を立ち上げた。だが、その一方で大谷は部員に教える自信が無かった。

そんな大谷を支えたのは道場での指導員の経験だった。サークル以外でも大谷は普段から近所の道場で子供たちにテコンドーを教えている。当初は自分のことだけで手一杯だったが、次第に相手が自分に何を求めているのか考えるようになった。そして、分かったのは「仲間のために自分が強くなる」ということだ。

「仲間についてきてもらうためには技術を身に付けることが大切。そして教えるという立場になった以上は実力がすべてなんです」。大谷は教えることへの覚悟を決めた。

そんな時、大谷は全日本学生大会への出場を決める。部員に実力をみせることができる千載一遇のチャンスだ。大谷はこのトーナメントでベスト4まで勝ち進み、ついには全日本大会（出場者は学生のみならず社会人も含む）への切符を掴んだ。



CHONJI 大谷悟さん

本当の強さを追い求めて

そして、迎えた全日本大会当日。この日の大谷は所属する道場のメンバーとともに出場した団体組手での活躍が目覚しかった。強豪揃いのチームのなかで、大谷たちはベスト8まで駒を進める。しかし次の相手は世界チャンピオンが在籍するチーム。力の差は明らかで大谷の前2人が敗北を喫し、後がなくなる。さらに大谷の相手は世界チャンピオンという絶体絶命な状況。だが、大谷はチャンピオンに対して臆することなく積極的に挑んだ。最終的に際どい判定で負けてしまうが、すべてを出し切った大谷の顔に曇りはなかった。

翌日の練習。大谷の真剣な姿を見た後で、部員のテコンドーに取り組む姿勢が変わった。「CHONJI」の夢はまだスタートしたばかりだ。

（橋本成矢）

デスクより

■写真展日程変更のお知らせ

本紙5月号（第267号）に掲載した記事に変更点がありました。

2面「文化団体活動予告」の写真部の「学外展」は、休校の影響で8月11～16日の5日間に変更になりました。開催場所は「Gallery LEDECO 渋谷」です。

■新入部員募集

成蹊大学新聞会では、新入部員（記者・制作・広告営業・カメラマンなど）を随時募集しています。部会を学生会館3階302号室で毎週月・水・金曜日の昼休みに開いているので、興味のある方は気軽に見学にいらしてください。

■情報募集

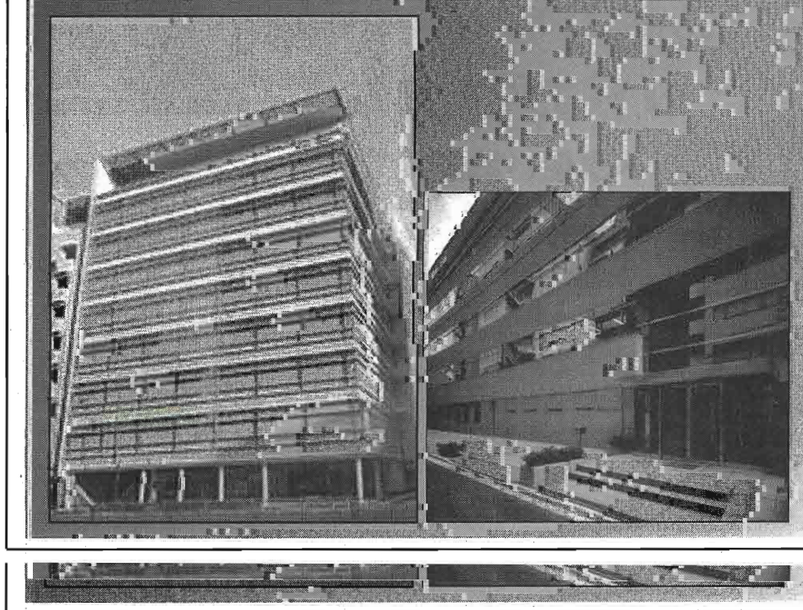
大会や試合結果などの情報を募集しています。seikeipress@goo.mail.ne.jpまでご連絡下さい。

■成蹊大学新聞会ホームページ

http://sup.karou.jp

成蹊大学新聞は学生が自主的に発行している新聞です。取材・編集・発行に関するすべての責任は成蹊大学新聞会に属します。次号は11月上旬発行予定です。

SATORI GROUP



Technology
Solution
Global

手を伸ばすと、指先に“未来”が触れた……。
挑戦する楽しさを、
やり遂げる喜びを分かち合いたい。

FORESIGHT
もっと先へ、もっと未来へ

会社概要
・設立　1947年
・資本金　26億1100万円
・売上高（単体）　1098億4900万円
（連結）　2109億6700万円
・株式上場　2003年　東証一部
・事業内容　電子部品・電子機器の販売及び、これらに付帯する事業
・子会社
佐鳥エス・アイ・シー
佐鳥パイニックス
スター・エレクトロニクス
佐鳥エス・テック
台湾佐鳥
香港佐鳥
佐鳥貿易（上海）
韓国佐鳥
シンガポール佐鳥
佐鳥タイランド
佐鳥Ｅ－テクノロジー
佐鳥ドイツ
佐鳥パイニックスシンガポール
佐鳥パイニックスタイランド
佐鳥パイニックス香港
佐鳥エス・テック香港
佐鳥企業管理諮詢（深圳）

NEC販売特約店
佐鳥電機株式会社
http://www.satori.co.jp/
代表取締役社長　植田一敏（工業化学 1971年卒）

成蹊のイケメン☆パラダイス Mr.サークル王決定戦

大会概要

8月3日、吉祥寺S・P・Cにて、広告研究会主催の「Mr.サークル王決定戦」が開催される。開場は午後4時30分で、5時開演予定。事前に広告研究会からチケットを受け取るか、当日受付で、誰でも入場可能。本紙では、この夏一番アツい男「Mr.サークル王」を決定するこの大会を大特集する。さらに6名の候補者を一挙大公開！

このコンテストでは、「かっこいい！」「熱い！」「おもしろい！」と各サークル内で大人気の男子の中から、この夏最もアツい男、すなわち「Mr.サークル王」の名に一番ふさわしい者を決定する。本学に存在する60以上ものサークルから選び抜かれた精鋭、6名が候補者として出場。外見だけでなく、キャラクターや内面の魅力を重視した審査が行われる。サークル王という名の栄光をかけた、この夏一番熱い戦いが始まる！

▼コンテスト当日の流れ

オープニングでは、ストリートダンスサークル・JAM［z］によるパフォーマンスや、本学で結成されたバンドの演奏が会場を盛り上げる。

今回、司会者を務めるのは昨年度ミス成蹊の刀祢有理奈さん（物質生命2）。まずは司会の進行による候補者へのインタビューからスタート。特技の披露や所属サークルの紹介など、自分の個性やサークルについて自由にアピールできる時間となっている。その後、候補者たちの真の力が発揮されるさまざまなアトラクションへと突入！

メインアトラクションは「プロポーズ大作戦」。候補者6名がさまざまなシチュエーションで昨年度ミス成蹊の刀祢さんに告白をする。いったいどんな方法で刀祢さんにアプローチするのか・・・乞うご期待！

すべてのアトラクションが終了した後、観客にサークル王として一番ふさわしいと思った候補者に投票を行ってもらう。最も得票数の多かった者が、「Mr.サークル王」の称号を手にすることとなる。

今回総責任者を務める広告研究会企画局長の吉野賢一さん（物質生命3）は学生みんなで盛り上がれる、文化祭のようなイベントを作りたいという願いから企画しました。これをきっかけにサークル間の交流ができれば、これからのサークル活動がもっと楽しくなると思います」とコメントした。

それではお待ちかね！コンテストに出場する6名の候補者たちへのインタビューを大公開！

（渡邉光紀）

ESTELAS 今成将秀

バレーボールサークル「ESTELAS」の今成将秀さん（経済経営2）は群馬県出身のO型。身長は179センチ。サークルでのニックネームは「ジュン」で、周りから「嵐のマツジュン（松本潤）に似てる」と言われたのが由来。見た目は二枚目でありながら中身は三枚目とのこと。取材にもハニカミスマイルで答えてくれた。好きな女性のタイプは「芸能人でいえば北川景子さん。天然系で会話が弾むような女性が好み」とのこと。

そんな今成さんは高校時代からバレーボール部に所属しており、大学でもエステラスで活躍中。「男女の仲がよく、先輩との上下関係もないので過ごしやすいです」と笑顔で語った。

サークル王決定戦への意気込みを「エステラスのメンバーのためにも思い出に残るステージにしたい」と最後までハニカミスマイルをたやさずコメントしてくれた。

（高山彰）

apricot 柏瀬貴博

テニスサークル「apricot」から満を持してやってきたのは、神奈川県出身のO型、身長181センチの柏瀬貴博さん（経済経営3）。ニックネームは「カッシー」。高校時代にバンドのボーカルをやっていたこともあり、歌声には自信あり。ちなみに好きな歌は尾崎豊の『15の夜』。性格はポジティブかつアクティブ。何事にも前向きで、時たま見せる自由奔放さも彼のポイントだ。

apricotを国に例えるとアメリカだという。個性豊かなメンバーがたくさんいて、それぞれの自由を大切にしている。みんな仲が良く家族みたいな関係。その中で柏瀬さんは明るく元気なキャラクターで、何事にも動じない強い心を持っている。

コンテスト出場への意気込みを柏瀬さんは「いろんなサークルが集まって、成蹊をみんなで盛り上げていきたい。みんなで応援に来て下さい」とコメントした。（河野佑介）

SWING 高橋祐基

テニスサークル「SWING」から出場するのは東京都出身で身長174センチの高橋祐基さん（英米文2）。ニックネームは「たかゆー」。血液型は不明。その外見からは想像がつかないほど内面はすごくクールだ。周囲からB型ではないかと言われていることについて、「自分のペースを崩さないようにと自然に心がけているため、B型だと言われても認めざるを得ないですね」と冷静に語った。

SWINGの好きなところは何ですかという質問に高橋さんは「とにかくみんな仲が良いところです」と答えた。また、出場理由は何ですかいう質問には「始めは戸惑ったけれどサークルのみんなに推薦されたことで出場を決意しました」と淡々と話す。

最後にコンテストについて、「こんな大会に出場させてもらえるだけで嬉しいです。でも出るからには頑張りたい。応援してくれるSWINGのみんなのためにも良い結果を残したい」と静かなる闘志を見せた。

（原田健志郎）

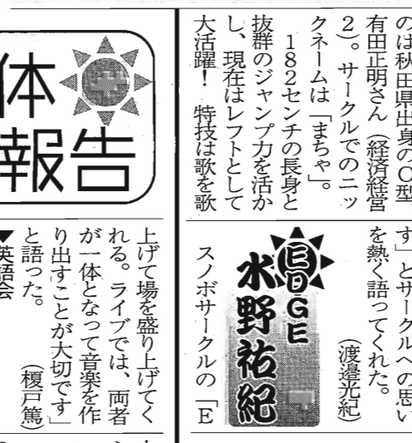
P.E. 有田正明

バレーボールサークル「P.E.」から参戦するのは秋田県出身のO型、有田正明さん（経済経営2）。サークルでのニックネームは「まちゃ」。

182センチの長身と抜群のジャンプ力を活かし、現在はレフトとして大活躍！　特技は歌を歌うことで、カラオケではその美声を遺憾なく発揮している。十八番は福山雅治の「mik tea」。取材に協力してくれたメンバーによると、有田さんの一番の魅力は、一緒にいて安心できる優しいオーラ。でも実は熱い男で、時にはみんなのためにサークルの方針について真剣に語ってくれることもあるんだとか。

有田さんはP.E.について、「お互いに知らないことないぐらい仲がいいです」と語る。最後に、「サークルのみんなにはいつも感謝してる。これをきっかけに、P.E.のことを広めることができたらと思っています」とサークルへの思いを熱く語ってくれた。

（渡邉光紀）



EDGE 水野祐紀

スノボサークルの「EDGE」から颯爽と現れたのは、東京都出身のO型、身長174センチの水野祐紀さん（情報科3）。スノボは高校の卒業旅行で初体験し、山の上からの景色に魅了されて以来好きになった。

水野さんのチャームポイントは、何といっても笑顔。しゃべるのはあまり得意ではないが、みんなからは「いつもニコニコしてるね」と言われるらしい。好きな女性のタイプは、宮崎あおいのような可愛らしい人。趣味は買い物で、服を選ぶのが好き。特に原宿にはよく出かけ、町にいる人を観察することにもはまっている。

EDGEはどんなサークルですかという質問に対し、「優しい人が多くて、特に部長がおもしろいです」と笑顔で話す。またコンテスト出場について、「最後の夏だし、出るからには頑張りたい。みんなの応援に答えたいですね」とニコニコ笑顔で答えた。

（鹿島健）

Q 石井智久

スノボサークル「Q」から登場したのは兵庫県出身のO型、身長180センチの石井智久さん（経済経営2）。通称「とも君」。

性格は優しすぎると周りから言われ、頼まれたら断れないたちだ。好きなタイプは中島美嘉のようなクールな感じの人。趣味は学校帰りに行くダーツと、休日を利用したツーリング。美容師として1年間働いた経験で磨かれたカットの技術と美的センスが彼の武器だ。

Qでは、サークルの仲間が楽しむ様子を見ているだけで幸せを感じられる。特に思い出に残っているのは、納涼船に乗って、みんなで浴衣を着て盛り上がったことだ。サークルのイベント以外にも、普段から仲間と共有する時間を多く持つことが仲の良い秘訣。

コンテスト出場に関して石井さんは「Qの仲間から頼まれて断れずに出場を決めてしまいました。でも目立つのが苦手なので、本番は汗がやばいかも。でも頑張るからみんな見に来て」と照れながら語った。

（河野佑介）

気になるサークル　ウーパールーパーフィルムズにせまる！

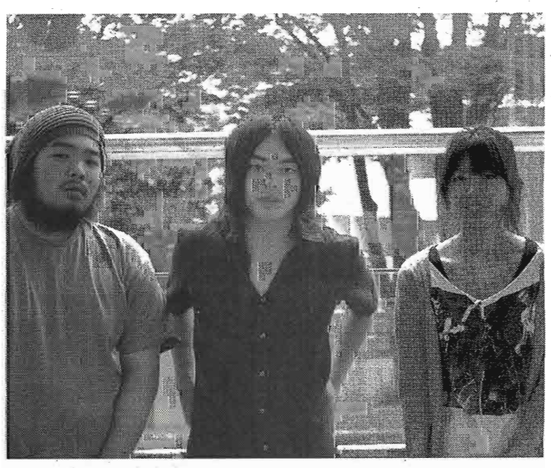
あなたは自主映画というものをご存じだろうか。自主映画とは、商業目的ではない映画のことで、個人や小さなグループで作ることが多い。本学在籍の「ウーパールーパーフィルムズ（以下、WoLF）」はそんな自主映画制作団体の1つだ。今回はその中から、監督・脚本を務める片岡裕貴さん（政治3）、役者の山本朝子さん（経済経営3）、音楽担当の行方祐樹さん（法律3）に話を聞いた。

片岡さんは中学校入学後、自主映画を制作する成蹊映画隊を結成。メンバーはその時々で入れ替わり、不安定な時期であった。脚本は書かず、簡単な柱書きのみを作っていた。どちらかというと遊び感覚で、とにかく映画を上映できるだけで嬉しかったという。

転機となったのは、初めて脚本を手がけた『PEACEPIILL』だった。その反響は大きく、上映会には多くの人が詰めかけた。3つの話が同時に進行していき、ラストへ向けて集約していく斬新な脚本が観客の心を掴んだ。片岡さんは「これをきっかけに、人に喜んでもらえるような作品を真剣に作ろうと思うようになった」という。

高校に入学し、WoLFを結成。片岡さんからの出演依頼に山本さんは「私なんかでいいの？　と戸惑いはありました。でも実は文化祭で『PEACEPIILL』を見てすごいと思ってたし、片岡君は女の子の友達が少なかったから私がやらないと、と思いましたね」と当時を笑顔で振り返る。

翌年の夏、高校の映画制作部をテーマに描いた青春映画『ハイライト』を制作。この作品は第一回映画甲子園で最優秀脚本賞を受賞。さらにその翌年、兄と弟の心の交流を描いた『おかえり』の制作が始まり、スタッフとして行方さんが参加。メンバーが固まってきて、WoLFに安定と信頼、映画制作の土台ができた。この作品でも、第二回映画甲子園で最優秀脚本賞（片岡裕貴）、最優秀助演女優賞（山本朝子）など4部門を獲得。他にも音楽賞・美術賞など多くの部門にノミネートされた。片岡さんは「みんなで賞をとれて嬉しかったです。でもWoLFという名前よりも、実際に作品を見て僕らを知ってほしいです。だから上映会を大切にしていきたい」と語る。



左から、行方さん、片岡さん、山本さん

片岡さんは今までを振り返り、「メンバーと仲が良いだけでは映画は作れないと分かりました。みんなが友達で近い関係だと撮影に緊張感がなくなって、いい作品が撮れなくなってしまうんです。だから、行方のような制作スタッフとは固い信頼を築き、役者とは撮影の時だけ会う、そんなビジネスライクな関係が映画制作にとって良いのだと思います」と話す。

また行方さんは「WoLFとは作品を作るための単なる事務所・土台であって、本当に大切なのはそこに映画を真剣に作りたい『人』がいてくれることです。みんなにはWoLFという事務所を使って、自由に活動していってほしいです」と思いを語った。

WoLF代表作の『おかえり』

今後の活動について片岡さんは「これまで大学で作った作品は内向的だったので、次回作は明るく人を楽しませるものにしたいです。新入部員も入り、夏休みの映画撮影に向けてとても盛り上がっています。メンバーと慣れ合いにならない距離感を保ちつつ映画作りが出来たら、と思ってます」と話した。

（河野佑介）

文化団体活動報告

▼軽音楽部

6月25日にライブバー「BLACK&BLUE」にて、夏定例ライブが行われた。これは、学内のコンテストを勝ち抜いたバンドだけが出演できるもの。今年は29組の中から9組が選抜された。

ライブの先陣を切ったのはTOKIOのコピーバンド。「宙船」や「花唄」など多くの人が知っている曲で会場を盛り上げ、ライブが開始すると同時に、演奏者と観客の興奮はピークに達した。

部長の佐藤佑介さん（経済経営3）は「演奏者は選曲などを工夫し、観客を引きつける。お客さんも自らテンションを上げて場を盛り上げてくれる。ライブでは、両者が一体となって音楽を作り出すことが大切です」と語った。

（榎戸篤）

▼英語会

5月30・31日に「GEMINI杯」が開催された。この大会は英語ディベートの大学2年生全国一を決めるもので、全国の大学から54チームが出場した。本学からは3チームが参加。齋藤良平さん（政治2）と土岐千沙都さん（法律2）のペアが3位入賞を果たした。

試合はその場で議題が与えられ、20分間の準備の後討論を行い、審判による評価が高い方のペアが勝ち上がる。予選は10位という結果で終わった。しかし、本選では予選上位の東京工業大学、2位のICUを破りベスト4まで進出。惜しくも準決勝で慶應義塾大学に破れるも、同率3位に輝いた。

二人は毎日、新聞に目を通したりスピーチの練習を行ったりと大会へ向けて努力をしてきた。齋藤さんと土岐さんは「まだ上には上がいるので、この結果に満足せずに努力し続けたい」とこれからの意気込みを語った。

（原田健志郎）

▼美術部

6月19から21日までの3日間、原宿デザインフェスタギャラリーで「水無月展」が開催された。展示スペースには個性豊かな作品22点が並んだ。

部長の島本貴誠さん（情報科3）制作の『ちりぢり』は、画面下部に赤い傘を持つ少女を小さく描き、画面上部から色とりどりのアクリル絵の具を大胆に流した作品。淡いブルーや紫色を使い、少女に降り注ぐ雨を激しく、かつ幻想的に表現した。

副部長の比企野純太さん（情報科3）は「新入部員を始め、みんなが積極的に作品を出展してくれたおかげで賑やかな展示会になりました」と振り返った。（渡邉光紀）

▼劇団円想者

定期公演会が6月20・21日の両日にわたり、学生会館3階で行われた。今回の演目は「Be Here Now」。

「お前を誘拐した」。そう記された1通の手紙が主人公・北川のもとに届く。それをきっかけに、女2人組の刑事をはじめコミカルな登場人物たちが奔走する。途中、時空を超える誘拐シーンなど空想世界の演出があるにもかかわらず、北川のフリーター生活を含むなど現代社会の厳しい現実も取り込んだユニークな舞台となった。

演出を担当した藤田行光さん（現代社会2）は「臨時休校のためリハーサル日数が減ってしまったが、団員の協力の下いい公演ができたと思う」と語った。

（高山彰）

▼混声合唱団

6月27日、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、本学・武蔵・成蹊大合同の定期演奏会「合唱連盟虹の会」が開催された。

本学単独ステージではアカペラによる「北極星の子守歌」ほか5曲を演奏。続く3大学合同ステージでは、作曲家の篠田昌伸氏が手がけた新曲「Z境」が初披露された。メッセージ性の強い、独特のテンポを持つ曲を出演者全員で歌い上げると、客席からは盛大な拍手が巻き起こった。

演奏会を終えて部長の伊藤祐一さん（法律3）は「合同ステージではお客さんに、曲に込められたメッセージを伝えられたと思います」と語った。

（佐藤芳太郎）

出演者と観客が一体となったライブ

WEBサイトを開設しました
http://sup.karou.jp/
携帯からもアクセス可能なブログ
http://maruta.be/seikeipress
Seikei University Press

教科書(中1～高3)一気総復習
今の英語力を見直してください。
英文法重視「マリカ」方式
―音読を繰り返し書いて進む―
医学部合格実績あり
企業は読み書き能力高く、英語で実務をこなせる人材を求めています。
●中3までの習得で英検2級TOEIC700点の実績あり。
●90分／1回、週何回でも、毎日でも何ヶ月でも環境に応じて選択可能。
●個別3～4人、個人授業の形態を取ります。
マリカ：天道虫
JPPS マリカ
〒107-0062 東京都港区南青山6-7-5-1101
TEL:0120-415-523
e-mail info@mariq.co.jp
FAX:03-3409-6660
http://www.mariq.co.jp 受付:木・日曜日・祝日を除く10:00am～7:00pm

サンロード内!!
Media Cafe POPEYE メディアカフェポパイ
地域最大級 次世代インターネットカフェ
全席カラープリンタ使用可能
女性専用シートあり
マッサージチェア
100MB超高速インターネットが使い放題!!
5万冊のコミック読み放題！ プレステ2、DVDもあります!!
最初の60分／250円～（平日）　以後10分／60円
ナイトパック／700円～
（毛布・クッション貸し出し無料）
6：00～10：00までに入店
モーニング6時間パック／1500円
学生割引実施中・学生証を見せていただくだけで100円引き
ドリンク飲み放題
年中無休　24時間営業
吉祥寺店
→成蹊大学から
マクドナルド
五日市街道
サンロードプラザダイアパレス3F
ABC
サンロード
吉祥寺第一ホテル
吉祥寺通り
LOFT
メディアカフェポパイ
武蔵野市吉祥寺本町1-11-30
サンロードプラザダイアパレス3F
TEL. 0422-29-0315